

# 第 10 回 緊急対応訓練 実施報告書

主催 伊東市ダイバーズ協議会

訓練実施年月日 平成16年 3月15日 (月)

訓練実施地 伊東市川奈港地崎

訓練実施時間 12:30 ~ 16:00

報告書作成者 富戸ダイビングサービス 西村 周

## 第10回緊急対処訓練実施報告書

- |          |   |
|----------|---|
| 1 実施期日   | 平成 16年 3月 15日 月曜日   |
| 2 訓練開催地  | 伊東市 川奈港地崎   |
| 3 訓練実施時間 | 12:30 ~ 16:00   |
| 3 - 1    | 12:30 集合、参加名簿記入、IDC 事務局挨拶、来賓挨拶<br>訓練開催者手順説明、参加チームブリーフィング                        |
| 3 - 2    | 13:15 訓練参加者準備、チームミーティング<br>訓練準備   |
| 3 - 3    | 13:50 訓練開始<br><br>訓練 1 行方不明者搜索訓練<br><br>訓練 2 通報訓練<br><br>訓練 3 事故者引き上げデモンストレーション |
| 3 - 4    | 15:00 訓練終了  |
| 3 - 5    | 15:30 訓練参加チーム毎のブリーフィング  |
| 3 - 6    | 15:50 チームリーダーからの報告<br><br>来賓 総評<br><br>IDC 事務局挨拶                                |
| 3 - 7    | 16:20 訓練終了・解散   |

#### 4 緊急対処訓練詳細

##### 4 - 1 事故発生対処、洋上搜索訓練および事故者引き上げ訓練

ビーチエントリーでのダイビング中、水中での離散により行方不明者が複数発生したとの想定で、訓練を行った。訓練は、水中搜索2チームを編成し、事故発生から時系列での対処手順案を実施した。

##### 4 - 1 - 1 訓練参加員数および訓練協力

訓練参加者	26事業所	40名
訓練参加船および船主	1隻	2名

視察 伊東警察署  
伊東市消防本部  
下田海上保安部伊東マリンパトロールステーション

6名  
全 48名

通報訓練協力 伊東市消防本部  
伊東警察署  
下田海上保安部警備救難課 全 3件

##### 4 - 1 - 2 事故発生時対処訓練参加者

チームA 八柳 雄、近藤友子 (テイク・シー) 今井 創 (川奈海洋ダイビング)  
八木克憲、川村圭吾 (川奈日和) 北沢容子 (川奈海洋ダイビング)  
保安要員 リーダー 三矢信吾 (シープロス城ヶ崎)  
サブリーダー 一政直美 (リーフレイダーズ)

チームB 鬼頭健介 (ジェスター) 田辺暁子 (O.D.A.JAPAN) 浦田民恵 篠原 聡  
鈴木真吾 (シーフロント) 弘中俊充 (テイクオフ)  
保安要員 リーダー 苅部 徹 (キープスマイリング)  
サブリーダー 松崎 剛 (パラダイビングスクール)

引き上げ 谷口勝政 (マリンスタージ) 津田幹夫 (デーフラット)  
佐藤光一 (シーエイム) 佐藤 榮 (シーウインド)  
黒川太郎 (テイクオフ)

溺者役 A:伊藤美世子 (リーフレイダーズ) B:田中佳代子 (シーフロント)

監視船 黒潮丸 船長: 斉藤 仁 中道 時夫 (富士丸)  
保安要員 佐藤 修 (フォーシーズンダイバーズ)  
兵藤 孝夫 (ヘイズダイブ)

通報 小沢和孝 津曲真生 (須崎ダイビングセンター)  
北島和彦 瀬戸策紀子 (川奈ダイビングサービス)  
米澤和昭 江崎 哲 (シーフロント・初島ダイビングセンター)  
米澤清博 (八幡野ダイビングサービス)  
石井千絵 (富戸ダイビングサービス)

#### 4 - 1 - 3 訓練内容

ビーチダイビング中、行方不明者が発生したとの通報を受け、捜索ダイバーを依頼し水中の捜索を行った。訓練シナリオに準じた、行方不明者の回収をシミュレーションした。

#### 4 - 2 事故発生時の通報訓練

伊東市消防本部、伊東警察署、下田海上保安部への適時通報を行った。

#### 4 - 3 事故者引き上げ訓練

チームAの事故者引き上げと、事故者搬送用フローティングボードによる引上げのデモンストレーションを実施した。

### 5 訓練実施体制

下記の要員を設定し、訓練の指揮、安全管理、訓練中の事故発生に対する緊急対処要員を配置し、訓練をサポートした。

訓練開催責任者	1名	西村 周	富戸ダイビングサービス
訓練開催責任者補佐	2名	村田 清臣 横田 雅臣	リーフレイダーズ GO TO THE SEA
訓練実施チーム統括者	1名	鞆 和彦	テイクオフ
訓練実施チーム統括者補佐	1名	後藤勝之	マリンロード
記録	1名	横田夕起子	GO TO THE SEA
監視船 1	4名	4 - 1 - 2参照	
訓練開始通報者	1名	横田雅臣	GO TO THE SEA
連絡員	1名	ダイビングサービス待機者 西村 周	

## 6 訓練への協力をいただいた関係各所

### 6 - 1 伊東市消防本部

- ・ 通報訓練へのご協力
- ・ 訓練当日、訓練開催地への救急車両1台、ポンプ車1台の配備
- ・ 救急隊員の視察、派遣

### 6 - 2 伊東警察署

- ・ 通報訓練へのご協力
- ・ 八幡野支署署員および地域課署員の視察

### 6 - 3 下田海上保安部 警備救難課

- ・ 通報訓練へのご協力

### 6 - 4 下田海上保安部 伊東マリンパトロールステーション

- ・ 隊員の視察・派遣

### 6 - 5 伊東市漁協川奈支所、川奈ダイビングサービスならびに黒潮丸

- ・ 訓練参加者の施設利用へのご協力
- ・ 訓練時使用タンクのご提供
- ・ 船舶傭船へのご協力 1隻 船長2名

### 6 - 6 川奈地区

- ・ 訓練案作成 川奈日和、ジェスター、川奈ダイビングサービス、GO TO THE SEA

### 6 - 7 伊東市ダイバーズ協議会会員および訓練参加者

- ・ 訓練参加

## 7 謝辞

### 7 - 1 伊東市消防本部殿

公務中にもかかわらず、訓練実施にあわせ署員による訓練視察および救急車両の配備、通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 2 伊東警察署殿

公務中にもかかわらず、訓練実施のあわせ署員による訓練視察ならびに通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 3 下田海上保安部 警備救難課殿

公務中にもかかわらず、通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 4 下田海上保安部 伊東マリンパトロールステーション殿

公務中にもかかわらず、訓練の視察を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 5 伊東市漁業協同組合 川奈支所殿

営業日にもかかわらず、港内利用のご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 6 川奈ダイビングサービス殿

営業日にもかかわらず、施設利用へのご協力および、訓練時使用タンクのご提供を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 7 川奈ダイビング船組合殿

営業日にもかかわらず、洋上訓練への傭船ご提供、ならびに訓練へのご参加を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 8 川奈海洋ダイビング殿

緊急対処訓練にあたり、地区業者への参加呼び掛けを頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 8 訓練参加者各位

ご多用にもかかわらず、訓練への多数のご参加を頂き、心より御礼申し上げます。

8 訓練総評

第10回緊急対処訓練が、参加者の事故、怪我などの問題がなく、終了できたことに対し、ご参加いただきました皆様のご協力の賜物と、感謝いたします。

下記に、参加いただいた方々、ご視察をいただいた方からの総評を記しますので、ご確認ください。

## 搜索チーム A 班

- ・ 陸上での準備や潜水前のセーフティチェックなどは問題なくできた。
- ・ 事故者の救助開始時に海岸への緊急シグナルが判りにくかったとの指摘があった。
- ・ 搜索中の搜索員の水深にばらつきがあった。
- ・ 180度の針路変更時に外側のロープを引く力が強く、基点となるダイバーが引っ張られた。間に位置するダイバーが、張力を緩和する必要があるように思う。
- ・ 180度の針路変更後、スタートの合図があいまいだった。
- ・ フードをしているせいもあり、発見時の合図音が聞こえにくかった。
- ・ 基点となるダイバーの進路を明確にするために、コンパスを使うことも考慮した方がよい。
- ・ 溺者曳航を2名で行ったが、3名で行う方がより良いと思われる。

## 搜索チーム B 班

- ・ 搜索についての反省点は A 班と、おおむね一致している。
- ・ 往路はエリアの境目沿いに地形を利用してコースを取れたが、復路は基準とする目標物が無かったため、結果的に南西方向へずれてしまい、コンパスの必要性を感じた。
- ・ ロープが長い場合、両サイドの合図が伝わりにくかった。
- ・ 結果的に標識発見には至らなかった。
- ・ 水面救助の際、救助者以外のダイバーがばらけてしまったが、周囲を取り囲んだ方が良かった。
- ・ 溺者曳航では、最短距離を進めるように誘導するダイバーが必要だった。

## 引上げチーム

- ・ 運ぶ際の打ち合わせや、下見をする時間が十分にあったので、引上げ作業はスムーズに行うことができた。事前の打ち合わせの重要性を痛感した。
- ・ CPR をやる予定だったが、引上げ時点で救急車が到着しており、実際に行うことができなかった。少しの時間でもできればよかった。
- ・ 与えられた環境の中で、何ができるかを考える機会は大切であると感じた。
- ・ 作業の目的・プロセスを参加者が理解した上で実施できたことが、非常に良かった。

## 通報訓練参加者

- ・ 情報のやり取りで連絡ミスなどの無いよう、必ずメモを取る必要がある。
- ・ 通報の際に、落ち着いて説明できるよう心がけなければならない。
- ・ 当事者からの事情聴取の際、ポイントを整理・確認しておかなければならない。
- ・ 各エリアで、日頃からの訓練の必要性を感じた。
- ・ 関係各所への状況説明がスムーズに実施できなかった点を反省する。
- ・ 新たな情報を、的確に相手に伝えられるかが重要であることを理解した。

## 伊東市消防本部

- ・ いかにも早く、心肺蘇生を開始することができるかが、重要である。
- ・ 引上げの際の、心肺蘇生を中断する時間をできるだけ短くするよう心がけること。
- ・ 事故者を運ぶ、寝かせるなどの際に、よく声が出ていたことが良かった。  
声を出して行動することは、とても重要なことである。
- ・ 事故者の性別、年齢、状況(溺水、減圧症)といった情報が必要。
- ・ ドクターヘリが運用されているが、減圧症は東海大、溺水は順天堂へと搬送先が異なるので、事故者の状況把握が、非常に重要となる。
- ・ 事故者を救急隊へ引き渡す際には、チェックシートへの正しい記入と提出をお願いしたい。  
そのためには、チェックシートへの記入の練習もしておくことが必要であろう。
- ・ 除細動機の実施が可能な高機能救急車が対島署へも配備される予定である。

## 下田海上保安部 伊東 MSP

- ・ 情報を受け取る、伝える時、必ず復唱し、伝達する情報に間違いが無いことを確認することが重要である。
- ・ 事故発生の一報を受けたあと、第一通報者とすぐに連絡を取れるようにしておくこと。
- ・ 重要な情報は、随時報告を入れ、誤情報はすぐに訂正すること。

## 伊東警察署

- ・ 事故後、関係者と連絡が取れるように、連絡先を把握しておいてほしい。

との総評をいただきました。

次回の訓練には、これらの事項を反映させ、より良い訓練が実施できるよう努力することをここに明記します。

最後に、参加された各事業所皆様の、ご健康とご繁栄を祈念いたします。

## 9 添付資料

- 9 - 1 訓練参加者名簿
- 9 - 2 訓練時の写真